

令和2年度 子ども未来応援会議 議事録 【要約】

日時：令和2年8月20日（木）13時30分～15時
場所：藤枝市役所5階会議室
主催：藤枝市教育委員会教育政策課

子ども未来応援会議は、「教育日本一のまち藤枝」を目指し、次代を担う子どもたちを健やかに育成するための教育環境の充実を総合的に推進するために組織され、学識経験者や教員、保護者、関係団体など17名の委員で構成されています。

今年度は、教育振興行動計画に基づき各課において各事業が実施されている状況を確認のうえで、教育振興基本計画に掲げる「学びの環境づくり」に必要な課題等について、多面的・包括的に意見・助言をいただきました。

発言者	発言内容等
委員長	<p>【委員長挨拶】</p> <p>新しく委員に参加された方がおり、この子ども未来応援会議で活発にいろいろな角度から議論され、すばらしい子どもの子育てや未来応援に貢献できるようお願いしたい。様々なテーマが未来にわたり山積みしているが、新しい教育に対し、新しい視点から論ぜられると思うので、皆様の発言に大変期待している。</p>
事務局	<p>【教育部長挨拶】</p> <p>本日はお忙しい中、また暑い中、お集まりいただき感謝申し上げます。また、平成23年にこの子ども未来応援会議が設置されて以来、これまでも委員の皆様様の様々な視点から、多数のご意見をいただいていることに対し、この場を借りてお礼申し上げます。</p> <p>まさに今、口を開けばコロナという時代で、教育面についても大きな影響があった。学校でも長期間の休校により、子どもたちの学びの保障や体力面、メンタルなど、様々な課題が山積みしている。</p> <p>本市においては、来週から2学期が始まるが、コロナ禍における新しい生活様式の実践により子どもたちにも大きな影響を与えていると思う。また、今後も学校行事の変更や工夫をしていかなければならないと心配をしているところである。</p> <p>市としては、補正予算により、GIGAスクール構想に基づき、今年度中には市内の小中学校全てに1人1台パソコンを設置する。また、3月の卒業から4月の新入学にかけての大事な時期に休校となったため、支援員を増員し、対応を進めているところである。いずれにしても、子どもたちの成長のために、各地域、家庭、学校などが、それぞれの役割を明確にし、連携をして対応をしていかなければいけないと強く感じている。</p> <p>子ども未来応援会議の委員の皆様には、これまでどおり、本市が行う教育施策、それ以外の面も含めて、いろいろな提案、助言、意見をいただける「外部有識者会議」という位置づけを担っていただきたいと考えている。</p> <p>また、来年度からは、令和5年「藤枝市教育振興基本計画」策定に向けて、動き出す</p>

	<p>年でもあるため、国の第4期教育振興基本計画、静岡県教育振興基本計画策定の動きもふまえた上で、本市の子どもたちにとってよりよい学びの環境を創れるよう皆様と一緒に進めていきたいと思うのでご協力をお願いしたい。</p> <p>本日も、多方面からのご意見をいただけるよう、よろしくをお願いしたい。</p>
委員長	<p>コロナ禍における学校・家庭・地域の役割について、事務局から資料の説明を求める。</p>
事務局	<p>今年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、市内の小中学校は、3月3日から19日、4月9日から5月24日まで臨時休校となった。学校再開後は、各学校で「新しい生活様式」を実践し、休校前とは少し異なる学校生活を送っている。</p> <p>現在、学校で行っている取組について、説明する。</p> <p>現在、学校においても、新しい生活様式を実践している。マスクの着用やこまめな換気、手洗い、消毒薬の使用を呼びかけるなど、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぎ、子どもたちが安心して安全な学校生活を送ることができるよう取り組んでいる。</p> <p>また、その他にも、教育課程の再編成や授業形態の変更、修学旅行や運動会などの全ての学校行事の時期や、やり方などの見直しを行うとともに、学校生活支援員として、年度当初に配置した支援員をさらに増員して配置し、特に小学校低学年の学習や学校生活全般の支援を行い、健やかな学びを実現できるよう努めている。幸いにして、休校による大きな影響はなく、むしろ子どもたちは久しぶりの登校に、友だちとの再開を喜びながら、1学期は全体的に元気に過ごすことができたように思う。</p> <p>簡単ではあるが、学校での取組については、以上である。</p> <p>本市では、新型コロナウイルス感染拡大の第2波、第3波による学校の休校に備える意味でも、学校のICT環境の整備を進めている。年度内に整備を完了し、授業での活用や休校時の在宅、オンライン授業の実施、学校に来られない子どもの授業参加など、活用していく予定で考えている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症による子どもたちの変化や影響など、身近で感じたことを踏まえ、学校・家庭・地域で子どもたちにできることについてご提言をいただきたい。</p>
委員長	<p>事務局からの説明があったが、質問も含め、いろいろなご意見をいただきたいと思うので、ぜひご発言いただきたい。</p>
学校関係者	<p>学校では、教育委員会の皆様のおかげで、子どもたちは安全に過ごしている。子どもたちは休校明けの久しぶりの登校を楽しみにしてきてくれた。確かに体力が落ちているので、登校するだけで大変そうな子どもや、ゲームやテレビなどで就寝時刻が遅くなっている子どももいたが、5月末から徐々にペースを取り戻し、夏休み前にはペースが戻った。夏休みよりは学校へ来ている方が楽しいという声もある中で夏休みを迎えた。今のところ、学校では、子どもたちに大きな怪我や、感染のリスクが高まってしまったという連絡は入っていないので、胸を撫でおろしている。</p> <p>先ほど説明があったが、学校が再開してすぐ、市の単独予算で支援員を増員してくださった。なかなか人を探すのが大変だったが、迅速に対応していただいたおかげで、2、3年生のクラスに厚く支援員をつけることができた。もともと配置されていた支援員はほとんど1年生のところにいるので、2、3年生でなかなか休校後ペースが戻らない子どもや、もともと支援が必要な子ども、昨年から少し不登校傾向で教室にいけなけれど、職員室には居られるといった子どもに付いていただけた。人手は欲しかったので、</p>

	<p>すぐに対応していただいたことをありがたく思っている。</p> <p>休校中に家庭学習をどうやって進めていくか課題になった。GIGA スクール構想が進んでいくことによって、万が一、また休校があったときも、公平にどの家庭にもオンラインで発信ができるようになると期待している。</p>
市民	<p>新しい生活様式で、学校行事が大きく見直され、先日行われた中学校の PTA の臨時役員会でも、実際に運動会や合唱祭をどうやっていこうか話し合いを持った。</p> <p>GIGA スクールの関係で質問がある。私の子どもが休校中に習い事があり、ZOOM でオンライン授業があったが、昼間は電波の状態が悪く夜に変更になったり、調子が悪い時間帯があったり、それぞれの家庭の環境の状態が電波が途切れてしまうことがあった。各家庭のパソコン環境を一定にしてオンライン授業を行うのは難しいと思うが、何か対策はあるのか。</p>
事務局	<p>学校では、現在、大容量のネットワーク工事を行い、学校内では1人1台パソコンが配置され授業を行ったとしても使える環境を整えていく。各家庭でネットを使うにあたっては、現在では、学校の Wi-Fi 環境やインターネット環境を利用して通信を行う方法で考えている。電波が途切れてしまうこともあるかもしれないが、時間を工夫して行う方法しかないと思っている。今後検討していきたい。</p>
市民	<p>テレビで、学校からパソコンを各家庭に貸し出したが、休校が明けに返却をお願いしたときに、100 パーセント戻らなかったというニュースを見た。そのあたりの対策は考えているのか。</p>
事務局	<p>1人1台なので、小中学校の児童生徒数分の台数、約 11,400 台の確保を進めている。家に持って帰ることで、壊してしまうのではないかと心配するが、持ってこない子がいるのではないかと心配するが、学校では予備のパソコンを用意したいと考えている。家に持って帰って家で学習ができるようにしたい。なによりもパソコンを自分のパソコンとして、小学校から中学校まで継続して同じパソコンが使えたら1番いいと考えているので、なるべく家に持って帰って、学校に持ってくる習慣を付けられるように考えていかなければいけないと思う。紙の教科書がなくなり、デジタル教科書になれば、パソコンを持って帰って持ってくるという習慣が自然に作れるのではないかと考えている。</p>
団体代表	<p>乳幼児でいうと、マスクをした保育者では、赤ちゃんに嘔んで食べるということが伝わらない。また、子どもがとにかく自己決定ができなくて、誕生日にシールを貼るのでさえ不安で大人に確認をする。正常ではない環境が子どもの心にどう影響しているかということを、いつも大人は考える必要がある。インターネット環境を整えたら、子どもたちにどう影響があるのか。給食のときに食べない、しゃべらないのは、とても楽しくない。リスクとプラスを考えていくということが必要である。</p> <p>私たちの時代は五感で学ぶ環境であるので、リモートになると、嗅覚、触角、味覚がなく、視覚と聴覚だけである。これだけで行った読み聞かせはどうなのか考えなければいけない。学校で電子機器を使いながらの授業の中で、人と人が繋がってこそ生まれる教育をどのように行っていくのか考えながら進めていってほしい。人間のコミュニケーションは目と目を見て、話して育つ。藤枝がいち早く1人1台を進めているのをすばらしいと思う反面、人間的コミュニケーションである友だちと触れ合えない、体力が落ちているということを考えていくことが大事である。</p>

<p>学校関係者</p>	<p>特別支援学校に藤枝の子どもが 140 人ほど来ている。休校期間中、知的障害のある子どもたちへどのようなアプローチをしていくか非常に悩んだ。オンライン授業がそもそも成り立たないので、DVD を各家庭へ回覧するといったことをしていた。体験的な学習を積み上げていくことが知的障害のある子どもたちの学習なので、まだ暗中模索のところがある。1 学期は 8 月 7 日までであった。なぜ延長したのかというと、知的障害のある子どもたちにとっては、ある程度まとまった学習が必要。例えば、種をまいたら花が咲いて実がなると一貫して分かっていないと学習ができない。そのため、2 学期、3 学期の学習期間をどの程度にするのかは、学習の単位を考えながら決めていくことが 1 番大事だと思っている。今心配していることの 1 つが、子どもたちの心の教育。様々な学習機会が失われている中、どういう形で交流学習が可能なのか悩みながらやっている。</p> <p>1 人 1 台パソコンは、特別支援学級の子どもたちにも配置される。その使い方をまた一緒に考えさせていただければと思う。</p>
<p>市民</p>	<p>地域を代表して参加をしているので、その立場からお話させていただく。地域として子どもの未来を応援するのは当然のことだが、なにしろ今こういう事態に陥っていて、私たちが経験したことがない非日常的な生活を強いられている。例年だと、私の地区では、子ども神輿や盆踊り大会があり、その中で、私たちはその子どもがどこの子かを知り、子どもたちもあの大人がどこの人かを知ることができたが、これらは行われていない。また、夏休みに行われるラジオ体操が、ほとんどの地区で中止になってしまった。このラジオ体操には子どもや PTA だけでなく、地域の大人も参加していて、非常に良いコミュニケーションの場であったが、それさえも行っていない。私たちは、今、子どもたちとどのように関わっていけばいいのか大変苦慮している。子どもがステイホームで家にいる時間が長く、親もリモートで家で仕事をしていて、お互いにフラストレーションが溜まり、DV があったという話も本市ではないが聞いている。そういうことも心配しており、地域として一体どのようなことができるのか考えたときに、PTA の皆さんを通じたり、民生児童委員の皆さんに気をつけていただき、子どもが被害にあわないように思っているが、民生児童委員の皆さんもあまりマンツーマンで家庭を訪問しないように言われていて、これもなかなかできない。現在夏休み中だが、学校に行くようになったら、見守り隊として登下校のときに各交差点に地域の人が立ち、子どもたちの安全を見守っているが、こういうときに気をつけて子どもたちを見てもらうなど、自治会として何かできることはないか暗中模索しているが、なにせこのような事態であるので、非常に悩ましいと言うのが実情である。</p>
<p>団体代表</p>	<p>昨年度より NPO 法人で子ども育成支援を子ども家庭課とともに始めた。そこに来る子は、ネグレクトなど、家庭的な事情を抱えた子どもたちで、学校が休校の間は活動を一時中止したが、学校に行かなければ給食を食べられないので、迎えにいくと朝から何も食べていないという子どもが何人かいる。その現状を知っていただきたい。気になるのは、コロナが収まって学校に行けばいいが、オンライン授業でないといけないとなったときに、パソコンは 1 人 1 台貸してくださるが、家庭環境がそういう環境になれば、あの子どもたちはパソコンを扱えるのかと心配である。そうするとますます学力の格差が広がるのではないか。今の子どもたちはパソコンが大好きなので、それなら授業がうけられる、不登校の子は逆にその方が良いということもあるかもしれないが、コロナに</p>

	<p>よってのいろいろな心配はある。</p>
市民	<p>小学校に通う子どもがいる。コロナのときに、子どもは学校が休みだが、大人は仕事、リモートにできるような仕事なら良いが、そうではなく出社しないといけない親のいる家庭にとって、休校期間に学校から親の助けがないとこなせないような課題が出され、親の生活スタイルによって学力に差が出てしまったのではないかと。親が日中手厚く見られるご家庭はなんなく過ごせたが、どうしても仕事を休めない家庭の子どもは、ほったらかし、ゲーム三昧で、運動不足にもなる。親としてそこがなかなか辛かったという感想がある。</p> <p>また、休校が明け、学校が始まっても、年度末からの遅れをあえて取り戻すような手厚い授業内容だったかという点、最後にやれなかった部分、前の学年の最後のところは、そのまま飛ばされてしまったような感じもあった。夏休み前までに、学力は追いついていないと聞いてはいるが、子どもたちが本当に分かっているのか不安がある。家庭によつての差もあり、教員的には大丈夫となっているが、実は差ができたり遅れている子どももいるのではないかと感じる。ただ、支援員を動員し、個々の遅れているような子どもを見てもらっているのはありがたい。</p> <p>オンライン授業について、私は運動指導でグループ教室をしているが、グループの運動が禁止になり、できなかったのが、オンラインで運動の教室をやってみた。20人ほどが、1つのZOOMの画面に入ってくるが、受けるお子さんは先生と自分なので、自閉症傾向の子や、落ち着きのない子は、先生と1対1で慣れた場所で運動ができる、誰にも見られずに誰と比較するでもなくやれるので、集中して20から30分間運動ができて良かった。運動指導というのは、実際に見てあげるのがいいと思っていたが、画面越しだから集中してやれるという子、教室に来るとあちこち気になって集中できない子が、オンラインだとできたという新たな発見があった。そういう対象のお子さんには、オンラインの提供もいいと思った。</p>
学識経験者	<p>現場のお話を伺って、教育の保障と感染リスクの低減の両立を求められている。現場の先生方はどれほど大変な思いをされているのだろうと想像しながら伺っていた。</p> <p>コロナの大きな一撃によって、ショッキングなことと嬉しかったことの2つ気づかされたことがある。ショッキングなことは、やはり日本のICT教育の著しい遅れが鮮明になった。アメリカや中国、韓国もいち早くオンラインに移行したが、日本はできなかった。それを目の当たりにして、失望したり、自信を失った大人も多かったと思う。でも、このコロナ禍というのは、一方で教育界が変わるまたとない機会になったと思う。これまで進まなかったことが、コロナを機に動いた。エアコンの設置にしても、パソコンの整備にしても、ピンチがチャンスになって、ようやく学校の教育環境が、一般社会や世界に追いついてきた。学校のICT環境は、コロナ対策というよりも、未来の藤枝市を担っていく子どもたちへの投資だと思うので、この機会をそれを加速するチャンスにますますしていただきたい。</p> <p>気づかされたことの2点目、嬉しいことだが、実は子どもたちは学校が大好きで、子どもたちにとって、学校は居場所であり、心や生活のよりどころだったのだということに気づかされたことである。学校が休校に追い込まれたときに、マイクを向けられた子どもたちが、早く学校に行きたい、みんなと勉強したい、遊びたい、部活をしたい、先</p>

	<p>生や友達に会いたいとみんな口々に言っていた。学校に行けなくなったことによって、体力が低下したり、鬱になってしまったり、そういう症状が出てくる。学校が再開したときの、先生方や子どもたちの笑顔が本当に嬉しく写った。それは学校の価値だと思う。人間形成や人生を切り開いたり、楽しんだり、個性や感性を誘発させる場に学校がなっていたのだということに学校に行けなくなって初めて子どもたちも気づいたし、大人たちも気がついた。先生方はそのことに自信や誇りを持っていただきたい。このコロナショックを改めて学校の存在意義を考えるきっかけにしていきたい。</p> <p>1人1台パソコンはハード面が整えられようとしているが、一方的に講義を行うのではなく、外国や一般社会が行っている同一方法のオンライン授業ができるということを目指さなければいけない。オンライン授業であっても、人との関わりやコミュニケーションの喜びを感じ合える授業作りができるように学校も変わっていかねばならないと今感じている。今の時点で修学旅行や運動会をカットしてしまったことは、それはもう仕方がないことだったと思うが、改めて学校が存続するために学校の価値を保つために、何が必要で何だったらできるのか考えていかねばいけない。</p>
団体代表	<p>私も子育てを3人終えたが、子どもがパソコンを持って学校に行き来すると、3台とも壊れるだろうと思う。安全管理が保障できない。自分が思っていたのは、学校に置いてあって、そこで勉強をする。ただコロナのこともあって、持って帰るとなるとなかなか厳しい。もし壊したり、なくしたり、盗まれたりした場合は、誰が保障してどう責任を考えるのか心配である。私も仕事の中で、パソコンは持って帰るとするのは危機管理的に絶対できない。そのあたり少しお聞きしたい。</p>
事務局	<p>家庭に持ち帰って心配されるのが、壊されること、傷をつけられること。タブレットは、周りに頑丈なゴム製のガードをして落としても割れないようにする予定である。ただ機械なので、飲み物をこぼしたり、使い方によっては傷がつく可能性もあるので、来年度以降、持ち帰るといふことになれば保守をかけて、壊れた場合には補償してもらふことを考えている。</p>
学識経験者	<p>日本はICTを活用しての授業時間は、OECDの先進国の中で最下位といわれている。それはこのコロナ禍において白日の下にさらされた。先進国との差がある。子どもたちや親が一番困っているのが、教育の格差である。私立と公立、塾へ行っているかどうかでどんどん差が開いている状況である。社会経済的地位についても、親と家庭の事情による格差で広がっている。</p> <p>コロナ禍を機として、ICT化、オンラインを、静岡県内で最も進んでいると思われるくらい積極的に進めてほしい。国はGIGAスクールを前倒しすると言っているが、自治体によってもオンラインの環境整備に格差がでている。自治体によって格差が出るのも困る。積極的に、国の前に行くような整備をしていただきたい。オンラインを進めると子どもが孤立することも考えられるので、少人数化の授業が必要になってくるのではないかな。国の法律による35人学級ではなく、もっと絞って少人数で行う。画像での授業だと、本物が分からなくなってしまう。動物でも昆虫でも画像を通してだけでなく、目で見て触れる、リアルなものを体験できることがますます重要になってくる。地域に出たの調査を学校でも野外授業として行い、なるべく外に連れ出す。体力づくりにも繋がるので、動物や虫など、リアルなものに触れさせることが重要になってくるのではないかな。</p>

<p>学識経験者</p>	<p>結論から言うと、天災なのでどうしようもない。できないことはできない。ある程度割り切る必要があると感じている。ただその中でできることと、できなかったこと両面を整理しておく。あと1年と少しの我慢だと思っている。その中で、基本的には国と県の指示のもと行わなければならないが、それを藤枝市はいち早く動いていることに感謝している。</p> <p>児童生徒の体力の低下という点だが、そもそも夏の体育のあり方も気にしている。暑すぎて外での体育ができない。そうすると次は何をやるかという体育館にエアコンを入れるしかないと思っている。本学は、体育館にエアコンが入っているので、学生は体育館でエアコンをつけて運動をしている。そういう環境でないが無理である。工夫しながら体育の授業をしなさいという時代はもう終わった。教室にエアコンが入っているのが当たり前になったように、体育館にエアコンを入れる時代が来ると思うので、検討をお願いしたい。</p> <p>GIGA スクール構想について、ICT 化が進むのは非常に良いと思うが、例えばメンテナンスやデータの管理を、分掌の1つとして教員が行うとなると苦勞すると思う。焼津、藤枝、島田が一斉に校務をデジタル化するときに、少し変えるだけでもだいぶ苦勞した覚えがあるので、管理の部分にもお金が充てられるといいと思う。</p>
<p>学識経験者</p>	<p>学校の対面授業は当たり前のことだと思っていたが、コロナでとんでもないことになってしまった。初めて、ステイホームで家にいなければならないということを経験した。それによって、教育の格差が出た。また、まだ勉強していない問題集を家でやりなさいと手渡され、教わっていないことをやるためには親の手助けがいるが、親が共働きの家庭ではよく見てあげられないなど、いろいろな問題点があった。ウイルスは夏の高温多湿のときよりも、温度が低く乾燥しているときに比較的流行りやすい。今後またステイホームのような最悪のことがあったとき、どうするか。学力に関しては、オンライン授業ができるということだが、運動不足で体力が落ちる、友だちと接することができない、それらに対してどうするかをもう1度考える必要がある。今はウィズコロナで、新しい生活様式が始まっていて、少人数で教育したらどうか、体育館にエアコンをいれたらどうかと意見が出たが、最悪のことを考えなければならない。学力面はオンライン教育ができそうとのことだが、それだけで良いのか。もう1度真剣に考える必要があると思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>教育に長く携わっていたものとして、またいろいろな研究者として見ると、コロナの問題はもう1度、教育とは何かということを基本から考えさせた。これは考えなければいけない。世界中が教育とは何か大きなテーマになっている。学校とは何か。もう1度考え直してみる。それから、もう1つの問題は、ワクチンが開発され特効薬ができあがったときである。これは予言は難しい。外国のいろいろな本を見ると、人間はもともと密なのではないか、教育は密があつて教育なのではないかという議論が多くある。またもとに戻ってしまう。どの程度インモラルとして戻るのか。戻らないのか。おそらく、そういうところに入るのではないか。例えば、インターネットを使った教育のいいところは使うが、子どもは運動不足になる。それをどう考えるか。今までどのように育ったかということ、人と会ったり、話したり、ご飯を食べたり、泣いたり、けんかしたりして育ったのではないかと私は思う。そういった問題は大人の社会にもある。どういう風に</p>

	<p>なっていくのかは、これから考えなければいけない。Go back to basic。基本に戻って、藤枝のために考えていく必要がある。藤枝市はどうしていくのか、ずっと前から議論されている。コロナ後は、ワクチンができて、インフルエンザと同じようになったら、皆さんどうするか。これは次回の未来応援会議に残したいと思う。こういった意見を交わすことはめったにないので、私は大変貴重な時間だったと思っている。</p>
委員長	<p>次の議題に入る。藤枝市教育振興行動計画 令和元年度実績及び令和2年度計画について、事務局から、資料の説明を求める。</p>
事務局	<p>藤枝市教育振興行動計画 後期計画においては、教育振興基本計画の3つの目標を中心とした施策体系により、154事業を掲載し、そのうち97事業においては、数値指標を定めて、施策の推進を図ってきた。</p> <p>資料については、施策ごと、昨年度までの実績と今年度計画の主なものを文章でまとめ、その中で「主な事業」を抽出し、事業内容の詳細を記載している。</p> <p>本来なら全施策についてご説明しなければいけないところだが、時間も限られているため、一部だが説明させていただく。</p> <p>【目標Ⅰについて】</p> <p>目標Ⅰ『市民総がかりで子どもの未来を応援します』ということで、本計画の推進や、地域、家庭の教育力を高める事業が並んでいる。</p> <p>【施策3 学校、交流センターを核に家庭・地域・学校等が一体となって取り組む教育の推進について】</p> <p>瀬戸谷・大洲・広幡地区に続き、西益津・岡部・葉梨・高洲地区で、小中一貫教育を開始するとともに、コミュニティ・スクールを導入した。7地区にはそれぞれ地域と学校をつなぐパイプ役としてコミュニティ・スクールディレクターを配置し、分野横断的な活動の総合調整など、統括的な立場で調整等を行い、学校運営協議会の円滑な運営に努めている。</p> <p>【目標Ⅱについて】</p> <p>目標Ⅱは『一人ひとりの子どもに未来を生き抜く力を育てます』ということで、子どもの育ちを支援する事業について記載されている。</p> <p>【施策5 地域の実態に合った特色ある教育を小中学校接続で推進について】</p> <p>先ほど説明した、瀬戸谷・大洲・広幡地区に続き、西益津・岡部・葉梨・高洲地区において、「地区小中一貫教育推進計画」を策定し、今年度より小中一貫教育を開始している。藤枝、青島、青島北地区についても、令和3年度小中一貫教育及びコミュニティ・スクール化に向け協議を進めている。</p> <p>【施策6 国際感覚を伴った英語運用能力の育成について】</p> <p>昨年度2名のALTを増員し、先行して小学校3、4年で年間15時間の外国語活動を実施した。今年度については、新学習指導要領完全実施による外国語活動・外国語科</p>

の授業時間数増加に伴い、ALTを増員し、週1時間、日本人教諭とティームティーチングを行う予定であるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、ALTの増員を延期する可能性もある。

【施策9 創造力・問題解決力の育成について】

学校図書館において、専門的な知識・技能をもった学校図書館司書を1校1人配置し、子どもが読書に親しむ環境づくりを進めている。また、今年度新たな取組として、科学教育の更なる推進を図るため、創造性豊かな人間性を育む視点を加えた『藤枝市少年少女発明クラブ』を開設し、市内の多様な地域人材を講師に、小学校を対象とした科学教室を行っている。

【施策11 特別支援教育の充実について】

近年増加している特別な支援が必要な児童生徒が、個に応じたきめ細かな支援を受けながら学べる環境を整備するため、葉梨中学校に新たに自閉・情緒の学級を新設し、適正就学を推進した。今年度は、医療的ケアを必要とする児童生徒への支援のため、看護師免許を持った「学校看護師」を配置するなど、子どもの実態に応じ、柔軟に支援ができるよう支援体制を整えている。併せて、新型コロナウイルス感染拡大による小中学校の臨時休校後の開校において、学習の遅れに対する支援やスムーズな教育体制の整備を行うため、各小中学校へ40名の「学校生活支援員」を配置するよう進めている。

【目標Ⅲについて】

目標Ⅲ「だれでもどこでも学び合う環境を整備します」ということで、世代を超えた学びを支援する事業について記載されている。

【施策16 生涯学習・スポーツの振興について】

高齢者が自らの居場所や出番を見出して、生きがいを感じながら活躍する元気なまちづくりに資するため、大学など各種団体や地域との協働により講座等を開催し、多様な学習機会を提供していく。また、市立図書館では、赤ちゃんや小さな子どもと一緒に気兼ねなく図書館を利用することができるよう「赤ちゃんタイム」を実施し、本を楽しみながら安心して過ごせる場所を提供し、乳幼児を持つ保護者の図書館利用を促進していく。

以上、行動計画の令和元年度実績、令和2年度の事業計画の説明とさせていただきます。

昨年度この会議の場でご報告した「全国学力・学習状況調査の結果」について、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となったため、結果の報告はない。皆様の専門的な視点で、大所高所からのご意見をいただきたい。

委員長	膨大な細かく記載された資料なので、意見が難しいかもしれないが、この資料に捉われず、日ごろからもっと必要ではないかと思っていることがあったら、提案、質問という形でご発言いただきたい。
団体代表	特別支援教育の施策のねらいに、「乳幼児期から特別な支援を必要とする子どもの把握に努める、切れ目のない…」という言葉が書かれているが、令和2年度計画の中にその

	<p>視点の乳幼児期からがない。幼児教育の充実の令和2年度計画の中に「ムーブメント教育研修への参加や公立園への巡回によるムーブメント活動の啓発」と記載がある。この会で必ずムーブメント教育を取り上げるというのは1つのやり方としてはどうなのかというのを置いて、この内容とその下「発達支援コーディネーター」は前のページの計画に入れた方が切れ目のないということでは繋がるのではないか。</p> <p>幼児教育の充実が施策12になっていて、方向性等が書かれている。健康福祉部児童課が作成したすばらしいパンフレットがあるが、これには、働きやすい職場とiiつつ、保育の質の充実、専門性を高める、豊かな地域社会を作る、チームワークで働く、保育所の負担を減らそうといった内容が記載されている。課を超えて、こういうところに重なってくれば良いのではないか。藤枝市子ども子育てスマイルプラン21では、「子どもの未来を創る、子どもが未来を創る」ことを実現し、子どもを中心とした持続可能な豊かな地方都市ということでその中心が働きやすい職場作りになっている。それがやはり幼児教育の質の充実につながっている。ここでは、次の未来は、働きやすい職場づくりから子どもを中心とした豊かな社会づくりへ。1つで終わるのではなく、つながっていくと重厚な施策になるのではないか。子育て、幼稚園、保育園、地域型の保育園などいろいろな形があるが、そこを巻き込んでここに載せられると良いと思ったので提案させていただいた。</p>
<p>学校関係者</p>	<p>特別支援教育の充実について、幼児期から小学校への移行は大切であり、早期発見、早期支援が必要だということもご存知だと思う。発見体制の充実の就学前言語障害児指導の担当課が教育政策課で、発達支援委託事業などの担当課は子ども発達支援センターになっている。市教委にいた頃、担当者同士が連携を取り合っていたが、これらの担当課のすみわけ、どちらがどの部分を担っていくとスムーズに行くのかというところが、就学支援の持ち方や、先ほど切れ目のないとお話したところにも関わってくるので検討していただきたい。</p> <p>もう1点、これはお礼だが、中学生に向けた発達障害支援事業、「する～ばす」という中学生に向けた支援だが、平成23年に子ども未来応援会議が設置されたとき、特別支援教育部会で現場の先生から中学生への支援の場がほしいと声が上がリ、予算化され行われた事業である。その頃は細々と中学校3校で、余った予算をかき集めて行っていたが、今は全中学校10校に設置されている。皆さんのおかげで中学校の支援が進んでいることも紹介させていただく。</p>
<p>委員長</p>	<p>もし他に何かあれば、事務局へぜひいろいろな意見をお願いしたい。</p> <p>次の議題に入るが、まず、事務局から、資料の説明を求める。</p>
<p>事務局</p>	<p>先ほど、全体総括の中で、学校図書館司書の1人1校配置について簡単に説明したが、昨年度までは小中学校27校に14名の司書を配置し、2校兼務により対応していた。今年度から13名増員し27名を配置、1人1校専属で勤務する体制を整えた。学校図書館司書の常駐により、子ども一人ひとりに寄り添った本の提案ができた、教員が本について相談がしやすくなったといった声が聞かれている。今後は、市立図書館との連携をさらに深め、市立図書館にある本を借りやすくするシステムを構築するよう、さらなる読書環境の充実を進めていく。</p> <p>また、市立図書館3館においても、様々な取組を行っており、夏休み期間中に小・中</p>

	<p>学生の課題や宿題などの調べ学習を支援する相談員を図書館3館に配置する事業や、障がいのある子どもたちが気兼ねなく施設を利用し、絵本や本に親しんでもらうために、休館日の駅南図書館へ招待する事業など、子どもが本に親しむ機会を提供している。</p> <p>市立図書館や学校図書室にて読書活動の推進を積極的に行っている中、今後、豊かな心の育成と教養の向上のために求められることについて、ご意見をいただきたい。</p>
委員長	何か具体的な提案があればお願いしたい。
団体代表	<p>学校司書の全校配置について、私たち読書活動を行う地域の1人としては、念願だったことがようやく叶ったということでありがたく思う。8月初旬に在校生のお母さんと話す機会があったが、今後の地域の読書、読み聞かせについて、コロナ禍の中どのように行うか話をしたときに、司書が全校配置になることが嬉しいとおっしゃっていた。司書に当たり外れがあるのは本当かと聞かれた。司書への研修会に参加した方から、市長が出向いてくれて嬉しかったという話を伺った。今後も司書の情報交換、本に関しては新しい情報が必要だと思うので、研修や司書同士の交流といった面に力をいれていただきたい。</p>
委員長	<p>皆さんは本をお読みになるか。最近本を読む量が減っている。読んでいるのはインターネット、SNS、タブレット。家庭で本を読むのが減ったのではないか。藤枝市でどのくらい本を読んでいるのか分からないが、家庭で本を読んでいるかどうかは、子育てにかかってきている。私が子どものとき、親が本を読んでもくれた。それから子守唄を歌ってくれたが、今はあまりない。寝るときに親が本を読んでもくれる機会はあるのか。</p>
団体代表	<p>減ってはいる。幼稚園で絵本を注文するとき、以前はクラスの大半分が取っていたが、今は半分以下。本が嫌いでも、絵本を1対1で親が膝で読んでくれたことが嬉しくて絵本の時間がある。絵本の世界と親とのコミュニケーションがとても減っている。ビデオで撮って見せているところが多い。</p>
団体代表	<p>そのために他の市も含め、藤枝市ではブックスタート事業をやっている。6ヶ月検診のときに絵本をいただく。</p>
委員長	大学の学生は本を読むか。
学識経験者	<p>図書館はあるが、利用率は低いと言われている。教員側は本を読ませたくてたくさん購入するが、2年で置く場所がなくなると言われている。今はネットの時代で、本は場所をとるので、図書館、図書室の充実といっても予算と、それを保存しておく場所という過程からしてなかなか難しい時代になっていると感じる。ただ、やはりその重要性をどのように伝えていくかということになる。</p>
学識経験者	<p>ペーパーレスが進んでいる。藤枝市では電子書籍がどうなっているのか後でお聞きしたいが、図書館を子どもたちがただ単に本を読む場でなく、ものを通じて創造力を働かせたり、子どもたち同士で意見を交換する場として今以上に交流の場にできればいいのではないか。学年を超えて、そこでいろいろな思いが講じ、より膨らめばいい。私の孫が、今恐竜がとても好きで、親だと足りなくて、友だちと話す。恐竜のことになると毎日徹底して話し合う。例えば、天体や生き物など、好きなものを周囲の友だちと、創造力を働かせて調査していく。そういうきっかけになる場に図書館がなればいいと思う。</p>
学識経験者	<p>先月、教育委員会の会議に出席したときに、この子ども読書活動の事業について意見を述べた。その中で、ブックスタートもそうだが、就学時検診のときにもセカンドブッ</p>

	<p>クとしてお勧めの本のパンフレットを渡したり、今紹介があったそらいろ図書館として、図書館の休館日に招いて自由に読書ができる活動を昨年度行ったと報告があった。その会議でも、本に興味を持つような取り組みをしていただけて良かったと意見を述べた。意識の高い方たちは、今でも本に親しむ活動に熱心に取り組まれていると思うが、そうではない関心が全くない方たちはどんどん離れていくという二極化を感じている。私の大学では基礎ゼミナールのときに、本の内容をみんなにPRするために、帯を作る活動を授業の中で行っている。今年はオンライン授業の中で行ってみたが、学生はちゃんと愛読書、自分が進めたい本を持っていて、それなりにPRをしてきたので、それしか見てないが、思ったより読んでいるのかと思った。なるべく文字に触れさせたいと思い、授業でも本とは言わないが資料の読み込みをさせ、オンラインなので課題をたくさん出して、反応を見たが、やれる子はやれて、やれない子はやれないの二極化が多いと感じた。コロナの話になるが、こういうときこそピンチはチャンスで、学校だけではなく、図書館も社会教育施設になるが、大人を巻き込んでの意識を市全体で作っていくことが重要だと感じている。</p>
<p>委員長</p>	<p>私の経験から言うと、日本の学校教育に欠けているのは、ブックレビューである。英語教育は話すことに重きを置いているが、アメリカの大学をきちんと卒業しようと思ったら、本を読まないといけない。英語ができなくても読めればいい。私に読む力があつたのは、子どものときから本を読んでいたからである。子どもをつれてアメリカで生活をしてきたが、毎日学校が、ブックレビューとして、本を読んで、簡単にどんな内容でどこが面白かったか書いて出すといった課題を出す。子どもたちはみんな図書館に行く。図書館に同じような本がたくさん置いてあるので、借りてきて読み、書いたものを先生に提出する。図書館と学校は密接な関係がある。そこで面白い現象を見たが、町の図書館には、町のお母さんが空いている時間にボランティアで図書貸出しを手伝い、子どもは本を読む。本が汚れるので1年経つと本は全て売り、そのお金で本を買う。ここでは、子どもが親と一緒に本を読む仕組みができている。これが日本でできるかは分からない。しかし、本を読ませる強制力が大学まである。アメリカの大学では本を読まないと卒業できないが、日本は読まなくても平気である。仕組みが必要だがそんなことできるだろうか。</p> <p>もう1つ、家庭で本を読むのは、親の責任。面白いから読んでみようという誘い出す力が重要。昔は遊ぶものがなかったので本を読んでいたが、今はインターネットやタブレットがあるので、本を読む習慣がなくなった。インターネットなど何をするにしても、解読力、文字を読む能力は不可欠である。読書環境の充実をいろいろな面から考えたらどうか。1つ提案があるが、藤枝市で読書コンテストを開催するのはどうか。小学校からこういう本が面白かったと提出してもらい、コンテストで選ぶ。賞をもらえるコンテストを行うと、そのような環境が生まれる。まちを挙げて読書コンテストを行っているところはあまりない。そのようなやり方もあると思う。</p> <p>また何か意見があったら事務局へ出していきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>先ほど電子書籍についてご質問をいただいたのでお答えする。来年に向けて検討を進めているところである。一昨年度も検討した。現在、電子書籍が3千億円市場と言われている中、その大半がコミックである。その次に、雑誌などの適格物がある。さらに小</p>

さい中に本が、電子書籍としてリリースされる。出版社が電子図書館へ提供してもらえ
るものはとても絞られてしまう。現状では紙の本の代理体になるといえる状態ではない
と把握をしている。国会でも読書バリアフリー法などの提案が出てきていることから、
出版社の状況も変化していくことが考えられるので、そのあたりの状況を見つつ、いい
ものとして提供できるよう揃えたいと思う。

皆様からたくさんの貴重な意見をいただき、感謝申し上げます。今後の教育施策に反映
していきたい。冒頭、教育部長からお伝えしたが、教育の10年の計画である教育振興基
本計画と基本計画の実現に向け具体的な事業を示した後期5年間の計画である教育振興
行動計画がある。基本計画については平成25年度から令和4年度までの10年間であり、
令和4年度に終わるので、来年度、皆様にご協力いただき、新たな教育振興基本計画を
作りあげていきたいと思っているので、引き続きよろしくお願ひしたい。本年度の会議
は本日をもって終了となる。本日のご協議に感謝申し上げます。